郡山市立美術館 常設展示目録

2019 年度　第 4 期
2020 年 3 月 1 日～ 5 月 10 日
※作品は都合により一部展示替えを行うことがあります。

展示室１　来日したイギリスの画家たち

バーナード・リーチ《壺》

ヨーロッパで日本趣味が流行していた 19 世紀末、本当の日本を知るために来日するイギリス人たちがいました。ここでは、絵画において日本とイギリスをつないだ重要な画家たちを紹介します。

新聞記者として幕末の横浜にいた画家ワーグマンは、日本人に西洋画を教え、メンペスは日本画家河鍋暁斎に師事しました。イーストやヴァーレー・ジュニアが日本で描いた作品は、まるで現実世界がそのまま絵になったような感覚を初めて日本人に与えました。そしてバーナード・リーチは、日本人に銅版画技法を教え、六代目尾形乾山に陶芸を学びました。

このようにイギリスから来日した画家たちとその作品には、それぞれの日本との関係が見えてきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
チャールズ・ワーグマン	西洋紳士スケッチの図	1870 代	油彩・スケッチボード
チャールズ・ワーグマン	若い女		水彩・紙
チャールズ・ワーグマン	北京風景	1860	水彩・紙
モーティマー・メンペス	新作芝居	1887 頃	エッチング、ドライポイント・紙
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	日光の茶屋	1890	油彩・板
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	赤羽、芝公園の一隅	1891	油彩・板
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	東京、麻布	1891	油彩・板
サー・アルフレッド・イースト	雨の湯本	1889	水彩・紙
サー・アルフレッド・イースト	スウェル川のほとり		油彩・キャンバス　佐藤克也氏寄贈
サー・アルフレッド・イースト	九月の陽光		油彩・キャンバス
バーナード・リーチ	北京の前門	1918	ソフトグランドエッチング・紙
バーナード・リーチ	家	1912	エッチング・紙
バーナード・リーチ	きこり		油彩・紙
バーナード・リーチ	壺	1934	水彩・紙　（株）名古屋画廊寄贈
バーナード・リーチ	山水	1968	墨・紙
バーナード・リーチ	立杭		コンテ・紙
サー・ジョシュア・レイノルズ	キティ・フィッシャーの肖像習作	1760-62 頃	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス
（資料）			
チャールズ・ワーグマン	「日本の風景：神奈川奉行とその随員たちが火事現場に向かう―当社の特派員によるスケッチから」『イラストレイテッド・ロンドン・ニューズ』1864 年 3 月 19 日号		
チャールズ・ワーグマン	『ジャパン・パンチ』1886 年 5 月号		
モーティマー・メンペス	「芝居小屋の看板」、モーティマー・メンペス著『日本』 アダム・アンド・チャールズ・ブラック社、1901 年 12 月刊		
サー・アルフレッド・イースト	「桜が咲く頃」、F. T. ピゴット著『日本の庭』ジョージ・アレン社、1892 年 5 月刊		

展示室２　大正・昭和―日本洋画の青春期

藤島武二
《「耕到天」習作》

幕末にもたらされた西洋画は明治期を迎えて本格的に普及し、黒田清輝が日本の美術教育の基本をフランスの外光派に据えたことで、外光派的な表現が日本洋画壇での主流となりました。

しかし、その後に留学した有島生馬や山下新太郎らの帰国後の活躍や、『白樺』などの雑誌記事をとおしてヨーロッパ美術の新しい傾向が紹介されると、その影響を受けた画家たちが頭角を現します。なかには美術史に名を残す巨匠に直接師事してきた者たちもいました。マティスに学んだ中川紀元、ヴラマンクに指導を受けた里見勝蔵などです。また、安井曾太郎らは日本人ならではの洋画を模索しました。大正から昭和前期、それは日本の洋画界に若い力が台頭してきた時代でした。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
有島生馬	少女	1908(明治 41)	油彩・キャンバス	
山下新太郎	苔寺	1922(大正 11) 頃	油彩・キャンバス	
斎藤豊作	風景	1912(大正元) 頃	油彩・キャンバス	
小山敬三	風景	1922(大正 11)	油彩・キャンバス	
上野山清貢	サイパンにて	1925(大正 14) 頃	油彩・キャンバス	
河野通勢	ホレブの岩		油彩・板	
木村荘八	祖母の顔	1916(大正 5)	油彩・板	
小出楢重	自画像	1918(大正 7)	油彩・キャンバス	
川島理一郎	コルシカ島サゴーン風景	1921(大正 10)	油彩・キャンバス	
中川紀元	赤い下着	1920(大正 9)	油彩・キャンバス	(株) 興新産業寄贈
中川一政	冬の郊外 (葱畑)	1918(大正 7) 頃	油彩・キャンバス	
伊原宇三郎	靴職人	1925-29(大正 14- 昭和 4) 頃	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
里見勝蔵	軍人	1927(昭和 2)	油彩・キャンバス	
中山　巍	赤ジレ座婦	1927(昭和 2)	油彩・キャンバス	
林　武	静物	1943(昭和 18) 頃	油彩・キャンバス	宮崎利一氏寄贈
鈴木千久馬	橄欖樹の林 (南仏カーニュ)	1928(昭和 3)	油彩・キャンバス	
斎藤与里	海辺秋景	1937(昭和 12) 頃	油彩・キャンバス	
藤島武二	「耕到天」習作	1936(昭和 11)	油彩・キャンバス	
安井曾太郎	初秋の北京	1944(昭和 19)	油彩・キャンバス	
中村　彝	朝顔	1923(大正 12)	油彩・キャンバス	
古賀春江	蝸牛のいる田舎	1928(昭和 3)	油彩・キャンバス	

展示室３　現代美術の表現

トニー・クラッグ
《山と湖》

イギリスの現代美術家トニー・クラッグ（1949 年生まれ）は、鉄、木、ガラスなど様々な素材を用いて、人と世界との関係性をテーマに制作しています。当館では平成 30 年度に同作家の作品を 2 点収蔵しました。色の付いた木片の漂着物を組み合わせた《山と湖》、化学の実験器具をすりガラスで再現した作品、どちらもその色や形から私たちにある種の共通イメージを喚起させるでしょう。

20 世紀後半、イギリス美術の最先端で活躍してきた作家たちは、単純化されたモチーフによる構図の探求や、作品を構築する素材そのものへのこだわりから、洗練された作品を生み出してきました。彼らの鋭い感性による表現は、私たちの五感をも研ぎ澄ませてくれるのではないでしょうか。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
ベン・ニコルソン	ワン・イン・ワン	1978	ミクストメディア・メゾナイト	
ベン・ニコルソン	水差しと楕円形	1973	オイルウォッシュ、鉛筆・紙	
ウィリアム・スコット	ホワイトボウルとブラックパン	1970	シルクスクリーン・紙	(株) カサハラ画廊寄贈
ウィリアム・スコット	静物 II	1957	水彩、コラージュ・紙	(株) カサハラ画廊寄贈
デイム・バーバラ・ヘップワース	ふたつのフォルム、青	1958	油彩・ボード	
デイム・バーバラ・ヘップワース	オルフェウス（マケット 2）	1956	真鍮、糸	
デイム・バーバラ・ヘップワース	石柱（パヴァーヌ）	1953	油彩・パネル	
ヴィクター・パスモア	ワインレッド（version 1）	1964	レリーフペインティング・パネル	
トニー・クラッグ	山と湖	1984	木	
トニー・クラッグ	無題	1984	ガラス、木、鉄	
アラン・グリーン	４つの正方形と１つの角	1991	エッチング、アクアチント・紙	
アラン・グリーン	赤に向かう白のアングル	1992	エッチング・紙	(株) カサハラ画廊寄贈
アラン・グリーン	18 コの白と 50 コの黒	1990	エッチング、アクアチント・紙	
アラン・グリーン	ドローイング 339	1995	ミクストメディア・紙	

展示室４–①　ブレイクとパーマー

ウィリアム・ブレイク
『ヨブ記』より「ヨブとその家族」

1824 年 10 月 9 日､サミュエル･パーマー（1805-1881）は､念願であった巨匠ウィリアム･ブレイク（1757-1827）との面会を果たします。このとき、パーマー 19 歳、ブレイク 67 歳。青年パーマーがロンドンに住むブレイクの質素な自宅を訪問したとき、彼はダンテ『神曲』の作品に取り組んでいました。パーマーは自分の作品を恐る恐るブレイクに見せると、ブレイクは優しい励ましの言葉をかけてくれました。

「一粒の砂に世界を見る」と謳ったブレイクと同じく、パーマーも想像力を駆使した神秘的な作風が特徴です。一方、自然を嫌ったブレイクとは異なり、パーマーは自然こそが想像力の源であると考えていました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ブレイク	『ヨブ記』挿絵より 10 点	1825	ラインエングレーヴィング
ウィリアム・ブレイク	ダンテの『神曲』のための連作より 6 点	1826-7	ラインエングレーヴィング、ドライポイント
ウィリアム・ブレイク	コリネットの旅：ロンドンへ 62 マイルの標石		木口木版
ウィリアム・ブレイク	ヴァージルの『田園詩』第 1 巻		木口木版／本
サミュエル・パーマー	ひばり	1850	エッチング
サミュエル・パーマー	牧夫の小屋（日没）	1850	エッチング
サミュエル・パーマー	眠る羊飼い：早朝	1857	エッチング
サミュエル・パーマー	昇る月（イングランドの田園詩）	1857	エッチング
サミュエル・パーマー	早朝に働く農夫（山々に広がる朝）	1861 以前に着手	エッチング
サミュエル・パーマー	夜回りの人	1879	エッチング
サミュエル・パーマー	孤高の塔	1879	エッチング
サミュエル・パーマー	囲いを開く（早朝）	1880	エッチング
サミュエル・パーマー	サミュエル・パーマーによるヴァージルの『田園詩』の英語版	1883	エッチング／本

展示室４–②　ガラスの造形

佐藤潤四郎《オブジェ・羊車》

きらめきや透明感など、光の反射や透過によって生まれる多彩な表情は、ガラス素材の大きな魅力といえるでしょう。ガラスはその可塑性の高さから、近代以降産業製品としてさまざまに形づくられ、私たちの生活に深くかかわっています。一方、芸術家たちがガラス素材を用いて作品をつくる動きが起きたのは､昭和初期になってのことでした。佐藤潤四郎（1907-1988)は、郡山市出身で世界的なガラス工芸家です。ガラスの造形性を熟知し、卓抜した技術とすぐれたデザイン性によって、ガラス作品の芸術性を高めた第一人者となりました。

今回は佐藤潤四郎の作品を中心に、「ガラスの造形」をテーマに展示します。ガラスの属性に則した多様な技法と表現性に富む造形美をおたのしみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	花器 (顔)	1986(昭和 61)	ガラス／鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	花器 (グリーン)	1986(昭和 61)	ガラス／鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	花器 (灯もつけて)	1986(昭和 61)	ガラス／鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	花器・何をしようか	1986(昭和 61)	ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941(昭和 16) 頃	ガラス／宙吹	石井謙治氏寄贈
佐藤潤四郎	魚 (ブルー)	1973-76(昭和 48-51) 頃	ガラス／宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	舎利器		ガラス／宙吹・カレット融着、プランツ	

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	花器		ガラス／宙吹・雲母封入	
各務鑛三	クリスタル花瓶《鱗影》	1970(昭和 45) 頃	ガラス／宙吹・気泡封入、グラヴュール	田淵十一氏寄贈
クリストファー・ドレッサー	花瓶 (赤色クルーサ・ガラス)		ガラス／宙吹	
クリストファー・ドレッサー	花瓶 (緑色クルーサ・ガラス)		ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス／宙吹・グラヴュール、プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス／宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	大杯・ガラスを吹く人	1986(昭和 61)	ガラス／宙吹・グラヴュール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー		ガラス／型吹・グラヴュール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯 (グリーン)		ガラス／宙吹・プランツ	石川和子氏 , 長谷川貴子氏寄贈
佐藤潤四郎	ブルー花器		ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-82(昭和 55-57) 頃	ガラス／宙吹・エッチング、カット	
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡ロータス	1984(昭和 59)	ガラス／エッチング・サンドブラスト	
佐藤潤四郎	オブジェ・手	1984(昭和 59) 頃	放射能遮蔽ガラス／サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ステンドグラス・仏足跡		ガラス／鉄	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車	1980-82(昭和 55-57) 頃	ガラス／宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舎利器 (控)	1980(昭和 55)	ガラス／宙吹・カット	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舎利器カバー (控)	1984(昭和 59)	ガラス／宙吹・プランツ、雲母封入	
佐藤潤四郎	これ以上芽の出ない世界	1980-82(昭和 55-57) 頃	ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	「スーパーニッカ」手吹きボトル	1962(昭和 37) 年頃	ガラス／宙吹	川崎清氏寄贈
＊資料				
佐藤潤四郎	ウィスキーボトル「インペリアル」		ガラス／機械生産	サントリー㈱提供

ロビー展示　彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●１階			
笠置季男	躍進	1958（昭和 33）	セメント
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
●２階展示ロビー			
木内 克	露柱	1976（昭和 51）	テラコッタ
西 常雄	藤原義江像	1971（昭和 46）	ブロンズ
柳原義達	黒人の女	1956（昭和 31）	ブロンズ
高田博厚	アラン像	1932（昭和 7）	ブロンズ
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ